

押入れ産業社長 森田 浩史氏

予備校

の教材を

丸暗記し

て挑んだ

大学受験

は、第1



志望の大学・学部に合格できた。一生分の運をここで使い果たしたと思った。

大学の掲示板で自分の受験番号を見つけた時、力が抜け、その場にしゃがみこんだ。その時の様子は卒業アルバムに小さく載っていた。

社会人に向けた助走

ところがなぜか当時の記憶

があまりない。幸い必須科目

は午前に集中していたので、

午後のたまり場は自由が丘の

「×××ミラーズ」。店員の

制服を見るために飽きずに通

った。アルバイトは効率の良

い家庭教師を週4回。生徒の

家は比較

的大きな

町蕎麦屋

で、勉強

が終わる

と夕飯と



称して豪勢な天ぷら定食を食べさせてくれた。これはうれしかったなあ。その後は決まって六本木へ。

さすがに3年となると就職のことを考える。どういふきさつだったかは忘れたが、政府の外郭団体が主催する勉強会に参加していた。これは各企業から若手社員が選出され、週1回、夕方に集まって決められたテーマでディスカッションする、かなり真面目な会合だった。制服を着た自衛官もいた。

そんな会合に
なぜか学生の

分際で参加していた。

きつと遊んでばかりいる私

を見かねた親父のコネだった

のだろう。幸い参加者は私の

大学OBが多かったので、会

合の後の飲み会によく連れて

いってもらい、各社のナマの

話を学生としては数多く聞け

たように思う。

あつという間の大学生活だ

ったが、唯一心に決めたこと

がある。それは将来、海外で

仕事ができる人物になること

だった。